

# Slovenia Monthly *October 2015* vol.1-no.1

## スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2015年11月5日



### ～10月の主なポイント～

- 難民問題:** ハンガリー政府による対クロアチア国境封鎖を受け、スロベニアに難民が流入開始。10月31日までで11万6623人がスロベニアに入国。
- 政治:** パホル大統領がベルギーを公式訪問。
- 経済:** IMFが2015年のスロベニアのGDP成長率を2.3%に上方修正。2014年におけるスロベニアでのFDIが13.9%増加。
- 軍事:** EU軍事作戦「ソフィア作戦」への警備艇「トリグラウ」の派遣。
- 社会:** マリボル～デュッセルドルフ間新航空路線の発表。

### 難民問題

- 17日、ハンガリー政府がクロアチアとの国境を閉鎖したことに伴い、クロアチアからスロベニアへの難民の流入が始まった。スロベニア政府は、難民の入国を秩序を持って管理していくため、受入数の上限を1日2,500人と設定した(しかしながら17日で3000人の難民がスロベニアに入国し、それ以降難民の入国者数は増加)。
- 18日、スロベニア政府は国境管理及び難民移送支援のために264名の特殊部隊要員も含む、約1千名の警察官を派遣。
- 19日、スロベニア警察は、クロアチア国境ブレジツェ市のオレシェ地域でクロアチア側から未通報の約700名の難民を発見した。ジュニダル内相は、クロアチアが合意された人数以上の難民をスロベニアに移送しているとして非難。
- 20日、ブレジツェの難民収容施設にて、難民の間で喧嘩が発生し、警察は催涙スプレーの使用を余儀なくされた。シェンティリの宿泊施設では、オーストリアへの入国許可の発効を待ちきれない難民が警察のバリケードを強行突破してオーストリアに入国した。同日、ベルギーを訪問したパホル大統領が欧州委員会に対し、EU諸国からの人的支援及び財政支援を要請。

- 21日、スロベニア国会は、スロベニア警察の負担軽減のため、非常事態時の国境防衛にスロベニア軍の派遣を承認する権限を国会に付与する国防法修正条項を採択した。同日は約1万2600人の難民がスロベニアに入国。ブレジツェ難民収容施設にて、待機させられているのに不満を持った難民が20張以上のテントに放火した。
- 22日、アブラモプロス欧州委員(移民問題・内務担当)がスロベニアを訪問し、ツェラル首相は難民危機へのスロベニアの対応につき説明し、必要設備等のリストを提出して支援を要請した。
- 23日、対応にあたるスロベニア軍の数が650人に引き上げられ、任務の幅も純粋なロジスティックな活動から警察の支援へと拡大され始めた。ツェラル首相及びエリヤヴェツ外相は、国境でのフェンス設置の可能性に言及したものの、ハンガリーのように国境を封鎖するものではなく、難民が流入する特定の国境地点に集約したものである旨説明した。
- 25日、「バルカンルート」の難民問題に関する関係国首脳会合が開催され、スロベニアよりツェラル首相も出席。各国は難民流入対処への協力強化及び難民の他国国境付近への移動の抑制に合意した。また、EU加盟国よりスロベニアに対し、1週間以内に400人の警察官が派遣されることで合意した。

●26日、欧州委員会はスロベニア政府の要請を受け、1000万ユーロの財政支援を決定した。同日、政府は登録施設支援に民間の警備員及び税関職員を投入するほか、公共事業プログラムを通じた民間人約200人の雇用を決定した。

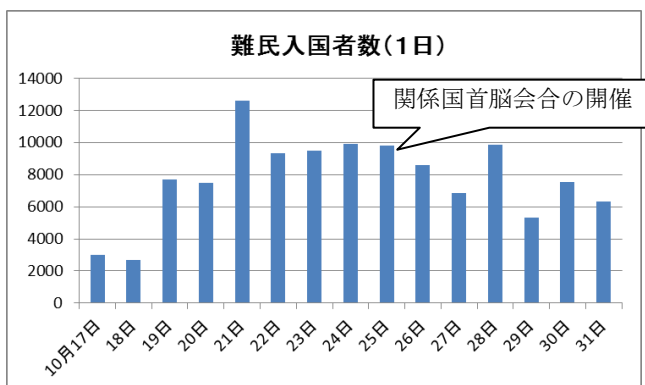
●27日、スロベニアとクロアチアは両国間の国境を通過する難民に対する新たな受入れシステムの実施を開始し、両国の協力関係に改善の徴候が見られた。同日、連立与党は、関係国首脳会合後に状況が改善されない場合の難民対応策の強化につき協議した。ツェラル首相は協議後、EUレベルで効果的な対応がなされなければ、スロベニアは「欧州の開かれた国境」の理念に沿わないようなさらに強硬な対策をとる以外に選択肢はなくなる旨警告した。

●28日、21日に国会で採択された軍に対する制限付き警察権の付与を可能にする法改正の施行が、左翼系ラジオ局による本法改正に反対する国民投票を求める運動のため延期された。

●29日、政府は、国内の状況は落ち着いており、25日の関係首脳会合での合意が効果をあげ始めていると説明。最大与党「現代中央党」副党首は、現在の対策は満足のものであり、現時点で追加的措置は必要ないとの見解を示した。

●30日、国会は、政府が難民の対処のためクロアチア国境にフェンスを設置する場合、これを支持するとの決議案を採択した。同日、シェフィッチ内務次官は、新たな難民受入れシステムを導入して以降、状況はかなり穏やかになってきている旨発言した。

●10月31日の時点で合計11万6627人の難民がスロベニアに入国し、2899人が国内の登録施設及び収容施設に滞在、20日以降合計9万8981人がオーストリアに出国した。(STA通信、スロベニア警察統計)



## 政治

### 【内政】

#### ●銀行資産管理会社(BAMC)会長の解雇・新会長の就任【6日、12日】

6日、政府は、財務省の要請にも拘わらず役員報酬規定を政府が定めた方針に準拠させることを怠ったとして、ニベルクBAMC取締役会会長の解雇を決定した。また政府は、過度な役員報酬の受領等により信用失墜を招いたとして、マンソンBAMC社長を取締役職から解任すると決定し、これにより、同社長は取締役会において社長職からも解任された。

12日、BAMC取締役会は、シモネティBAMC社外執行取締役(前リュブリャナ証券取引所所長)を新会長に、バログ社外執行取締役(プロバンカ銀行の廃行管財人)を暫定社長に任命した。バログ氏は、国際的な公募により新社長が決定するまで社長職を担うこととなる。

### 【外政】

#### ●ニコリッチ・セルビア大統領の訪問【8・9日】

8日及び9日、ニコリッチ・セルビア大統領がスロベニアを公式訪問した。

パホル大統領はニコリッチ大統領と会談を行い、難民問題における対セルビア支援を約束した。またパホル大統領は、スロベニアは9月からセルビアの難民対策制度を支援する「Twining」プロジェクトを支援しており、2016年からは人身売買対策のためにスロベニア警察による協力を開始するとの方針を明らかにした。

#### ●パホル大統領のベルギー訪問【20・21日】

20日及び21日、パホル大統領はベルギーを公式訪問し、フィリップ国王に謁見したほか、トゥスク欧州理事会議長及びユンカー欧州委員会委員長と会談した。

会談では主に難民問題について協議され、パホル大統領はスロベニアの深刻な状況を説明し、EU首脳と国境警備にあたるスロベニア警察に対する他のEU諸国からの人的支援及び財政支援について原則合意した。

#### ●ジュカノヴィッチ・モンテネグロ首相の訪問【26・27日】

26日及び27日、ジュカノヴィッチ・モンテネグロ首相がスロベニアを公式訪問した。

ツェラル首相はジュカノヴィッチ首相と会談を行い、その中でモンテネグロの近代化が地域の安定にお

いて重要である旨述べ、モンテネグロのNATO加盟を支持した。

### ●スロベニアの国連人権理事会選挙当選【28日】

国連人権理事会の理事国選挙が行われ、スロベニアが2007-10年に続き、2度目の当選を果たした。外務省は、今回の当選は、スロベニアの外交と世界で人権の保護と促進に長年寄与してきた結果であるとの声明を発表した。

## 経済

### 【マクロ経済】

#### ●IMFによる経済観測(2015年秋期)の発表【6日】

IMFは最新の「世界経済見通し」において、スロベニアの2015年GDP成長率を前回4月の予測より0.2%上方修正し、2.3%とした。一方で2016年GDP成長率は0.1%下方修正し、1.8%とした。失業率は、昨年の9.7%から本年は8.7%に低下し、2016年にはさらに8.1%まで低下すると予測している。

経常黒字は、昨年の対GDP比7.0%から本年は6.7%、2016年には6.2%に減少すると見込んでいる。

消費者物価指数は、昨年は年率で0.2%であったが、本年は-0.4%とデフレに転じ、2016年には再度0.7%のプラス成長に転じると予測している。

#### ●中央銀行による経済観測(秋期)【14日】

スロベニア中央銀行は秋期経済予測を発表し、本年の経済成長率の見通しを春期予測の2.2%から2.6%に上方修正した。家計消費を中心とする国内消費の回復が今次修正の要因となっている。また、2016年における経済成長率の見通しを1.8%から1.9%に、2017年の経済成長率を2.0%から2.2%にそれぞれ上方修正した。

今まで輸出が経済成長の原動力であったが、数年にわたる基幹部門への投資不足により競争力が低下した。

国内消費の増加は、この輸出の減少を補うと本年における国内消費は1.6%増加し、2016年は0.9%、2017年は1.8%増加すると予測している。その中でも特に家計消費の成長が大きく、本年は1.1%、2016年には1.8%、2017年には2%増加すると予測されている。(14日付STA)

### ●2014年海外直接投資報告書【22日】

スロベニア中央銀行は報告書「Direct Investment 2014」の中で、2014年におけるスロベニアでのFDIがストックで101億3千万ユーロとなり、対前年比で13.9%増加したと発表した。一方で対外直接投資は約3%増加し、53億ユーロであった。

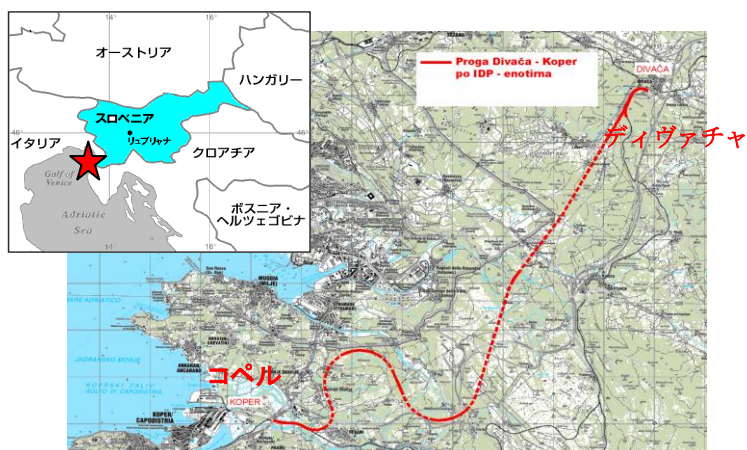
投資は主にEU加盟国からのもので、86億ユーロで全体の85%を占めた。最大の投資元は奥で、投資額は34億ユーロで全体の33.6%であった。第2位は独で10億5千万ユーロ(10.4%)、第3位は伊で8億ユーロ(7.9%)、第4位はクロアチアで7億8千万ユーロ(7.7%)と続いた。

日本からの投資は3千4百万ユーロで、全体の0.3%であり、2013年の4千4百万ユーロから減少した。

### 【金融・企業関係】

#### ●コペル(イタリア・トリエステ南方の地中海沿岸)～ディヴァチャ間鉄道第2路線建設に際する欧州委による支援提案【9日】

スロベニアを訪問中のカタイネン欧州委副委員長(職業・成長・投資・競争力担当)は、ツェラル首相と会談し、EU基金を活用した本件プロジェクト実施のため、欧州委によるプロジェクト策定に際する支援を申し出た。スロベニアは、プロジェクト策定に際し、欧州投資銀行及び欧州委の専門家の支援を得ることとなる。



#### ●コペル港湾会社によるダイムラー社との自動車輸送契約の締結【15日】

コペル港湾会社は、独自動車業大手のダイムラー社と自動車輸送契約を締結した。今次契約では、コペル港から極東地域に向けて、年間10万台以上の輸送を計画している。この結果、コペル港を通じ輸出される自動車の総量は、2014年におけるコペル港



湾会社の車両輸送量の20%に及ぶと見られている。

昨年はコペル港を通して計51万9000台の自動車輸送され、同港は地中海に面するEU加盟国の中で2番目に大きな自動車ターミナルとなっている。本年は9月までの間に43万3000台がコペル港を通して輸送され、輸送量は昨年比16%増加した。

### ●2015年における日本とスロベニアの株式市場の明暗【28日】

2015年1月からの10ヶ月間において、スロベニアの株式市場は11.9%のマイナス成長であった。世界平均は9.2%の成長であるなか、日本は先進国で突出して高い19.8%の成長を記録した。スロベニアの投資企業は、日本の成長の要因は特にデフレ圧力と円安であるとし、今後も成長は継続すると分析している。他方、スロベニア市場については経済回復が不透明であり、今後の見通しも明るくないと見ている。

### ●安川電機の創業100周年記念式典【28日】

リュブリャナ南東約40キロに位置するリブニツァにて、安川電機の創業100周年式典が開催され、ツェラル首相、福田大使が出席した。同式典に出席したツェラル首相は、スピーチの中で、リブニツァに拠点を置く安川の支社は、スロベニアにおける海外投資の成功例であると述べた。



(写真: 安川スロベニア社視察の様子。左よりコスレル安川スロベニア社社長、ツェラル首相、福田大使)

## 軍事

### ●EU軍事作戦 EUNAVFOR Med への警備艇「トリグラウ」の派遣【16日、28日】

16日、地中海の人身取引及び密輸ビジネス対策として展開するEUの軍事作戦「ソフィア作戦」に参加

のため、多目的警備艇「トリグラウ」がコペル港から南地中海に向けて出航した。トリグラウは、海上交通のモニタリング、不審船の監視及び不明者の捜索・救助にあたる。

28日、トリグラウは地中海上での捜索・救助ミッションに参加し、ボートで難民の密輸を企てていたグループから子供12人を含む100人を救助した。

## 社会・文化・スポーツ

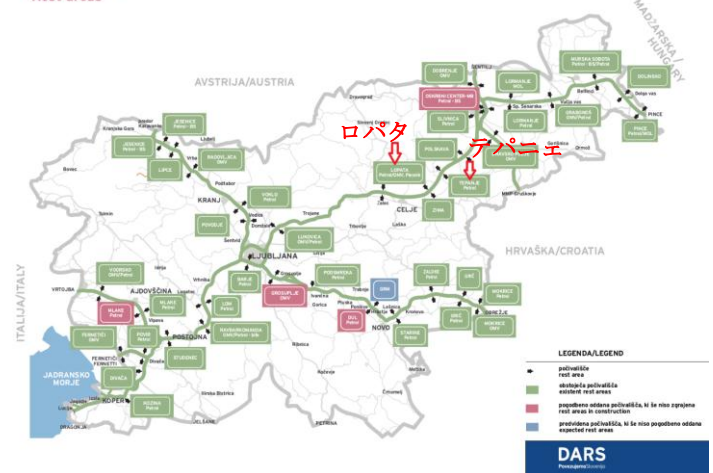
### ●パレスチナ人の子供たちへのリハビリプログラム【4日】

ガザ地区の紛争により負傷したパレスチナ人の子供たち9人がスロベニアに到着し、トゥルク前大統領の設立した基金の援助により、ソチャ大学のリハビリテーション施設で1カ月のリハビリプログラムが開始された。

### ●電気自動車用の充電所設置【13日】

計画中の26カ所の電気自動車用充電所のうち、最初の2カ所が、リュブリャナからマリボルに向かうシュタイエルスコ高速道路沿い、ロパタ及びテパニェのサービスエリアに設置された。本年末までに国内すべての高速道路で50キロごとに充電所が設置される予定である。

Servisne površine ob avtocestah  
Rest areas



### ●ブチャル元国会議長の訃報【21日】

民主的な選挙実施後、初代国会議長を務めたフランツェ・ブチャル氏が94歳で亡くなった。パホル大統領は、ブチャル氏はスロベニアの民主主義創設の父であったと述べ、同氏の死を悼んだ。

### ●憲法裁が同性婚に関する国民投票容認の判決【22日、30日】

22日、憲法裁判所は、同性婚に関する国民投票を禁止した国会の判断を退け、同国民投票を認める判決を下した。本件をめぐるのは、本年3月に同性婚を認める法改正案が採択された後、保守的グループが同性婚に関する国民投票を提起したものの、国会が、本国民投票は憲法違反であるとして、これを認めない判断をしていた。

30日、憲法裁の判決を受け、保守派グループは、同性婚を認める法律の廃止を求め、国民投票の実施に必要な4万人を超える4万8千人分の署名を国会に提出した。

### ●マリボル～デュッセルドルフ間新航空路線の発表【24日】

マリボル空港運営会社は、マリボル～デュッセルドルフ間の新路線を発表した。マリボルはスロベニア第2の都市で、2012年には欧州文化首都に選ばれた。同路線開設は観光会社のイニシヤチブによるもので、これによりドイツ北部からの観光客誘致が期待されている。

### ●第20回リュブリャナマラソンの開催【25日】

25日、第20回リュブリャナマラソンが開催され、2万人を超えるランナーが参加し、リュブリャナ市内を駆け抜けた。エチオピアのガタチュ選手が2時間8分19秒の大会新記録で優勝した。

### ●スロベニアの自動車事情

スロベニア自動車協会が発表した統計によると、スロベニア国内の登録車両数は、2014年末で109万2670台であった。これは1.88人に1台車を所有していることとなる。また、自動車の平均使用年数は9.1年であった。全体の約60%がガソリン車、約40%がディーゼル車で、ハイブリッド車及び電気自動車の登録数は33台のみであった。2014年における自動車販売台数は5万3242台で昨年より4.67%増加し、2012年より増加傾向にある。

#### 登録台数(企業別)(2014年末)

1 Renault (シェア 17.8%)	19 Mazda (1.5%)
2 Volkswargen (14.0%)	20 Suzuki (1.1%)
3 Opel (7.9%)	23 Mitsubishi (0.7%)
...	25 Subaru (0.3%)
12 Toyota (2.8%)	42 Lexus (0.05%)
17 Nissan (2.6%)	
18 Honda (1.5%)	

#### 2014年販売台数(企業別)

1 Volkswagen (シェア 15.8%)
2 Renault (15.0%)
3 Škoda (9.3%)
...
9 Nissan (3.7%)
14 Toyota (2.6%)
18 Mazda(1.2%)

#### 2014年販売台数(車種別)

1 Renault Cilo (シェア 6.7%)
2 VW Golf (5.4%)
3 VW Polo (4.6%)
4 Škoda Octavia (4.0%)
...
21 Nissan Juke (1.2%)

## スロベニアの難民収容施設 (Accommodation Center) と登録施設(Reception Center) の位置



### 在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: [info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

Web: [http://www.si.emb-japan.go.jp/website\\_jp/index\\_j.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html)

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

### 【文化行事・大使館関連行事のお知らせ】

#### ●能面師・北澤秀太氏が民俗学博物館で能面の彫りを実演

人間国宝の野村万蔵家の面制作に携わる能面氏の北澤秀太(きたざわ ひでた)氏を迎え、スロベニア民俗学博物館にて能や能面に関する講演および彫りの実演を開催します。

日時: 11月19日(木)午前11:00

場所: スロベニア民俗学博物館(住所: Metelkova ulica 2)

入場無料

#### ●リュブリャナ国際映画祭: 最新日本映画2本上映

11月11日から始まる第26回リュブリャナ国際映画祭にて最新日本映画「龍三と七人の子分たち」(北野武監督)及び「海街 Diary」(是枝裕和監督)の2本が上映されます。

上映スケジュールは映画祭の公式ページにある上映映画リストから確認できます。

URL: <http://www.liffe.si/index.php/en/program/abc-list-of-films>

#### ●平成28年度の国際交流基金事業 公募プログラム募集開始

来年度の国際交流基金事業公募プログラムの募集を開始しました。同プログラムは「文化芸術交流」「海外における日本語教育」「日本研究・知的交流」「アジア文化交流強化」の各分野を通じて、日本と世界の国際文化交流活動を支援するものです。各助成プログラムによって申請締切日が異なりますので、ご留意下さい。

URL: <http://www.jpff.go.jp/j/program/index.html>